

## 編集後記

雑誌名	東アジア仏教学術論集
巻	6
ページ	337
発行年	2018-01
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1060/00010392/">http://id.nii.ac.jp/1060/00010392/</a>



## 編集後記

本論集は、2017年6月30日から7月2日にかけて東洋大学で「東アジアにおける禅仏教の思想と意義」をテーマに開催された国際シンポジウム、「第6回 日・韓・中 国際仏教学術大会」の記録である。本学術大会は、日本の東洋大学、韓国の金剛大学校、中国の人民大学の交流協定に基づき、毎年1回、三大学の共催で開かれることになったもので、会場は持ち回りで開催することになっている。ちなみに、学術大会の名称は、本年度は「日・韓・中 国際仏教学術大会」であるが、公平を期するため、韓国で開催される来年度は「韓・中・日 国際仏教学術大会」、中国で開催される再来年度は「中・日・韓 国際仏教学術大会」と称することになっている。

今回の学術大会は、その第6回目にあたるものであるが、大会テーマが「禅」に関わるものであるため、初めての試みとして、東洋学研究所と同研究所内に研究拠点を置く「国際禅研究プロジェクト」(JSPS科研費JP17H00904に基づく)との共催の形を取り、運営等において種々の点で国際禅研究プロジェクトの協力を仰いだ。

本大会は三大学の共催の形を取っているが、学術性を維持するため、三大学に囚われず、各国からそのテーマに最も相応しい研究者を選んで発表して頂くことになっており、今回も多く大学の大学から優れた研究者が集い、活発な議論が行われ、素晴らしい大会となった。会議では、それぞれの発表に一人の司会者が付き、発表の後にコメンテーターがコメントを行い、発表者がそれに答えるという形で進められた。本論集に収められた「論文」と「コメント」は、大会当日、会場で配布された三箇国語の「第6回 日・韓・中 国際仏教学術大会資料集」のうち、日本語原文、あるいは日本語訳の部分に掲載したものであり、「コメントに対する回答」は、当日、発表者がコメントに答えた内容を後に文章にしたものである。

なお、論集所載の「論文」「コメント」「コメントへの回答」は、一年遅れの形で「東洋大学学術情報リポジトリ」を通じてインターネット公開されており、多くの閲覧者を得ていることは、本学術大会に関わるものとして喜ばしい限りである。今後もインターネットによる公開を継続し、更に多くの国内外の研究者に本論集が利用されることを願ってやまない。

最後に、参考に供するために、本年度の学術大会のプログラムを転載しておく。